

2024年8月27日

ジェイアイ傷害火災保険株式会社

## 2024年度 災害不安に関するアンケートレポート

調査期間：2024年7月4日～7月7日

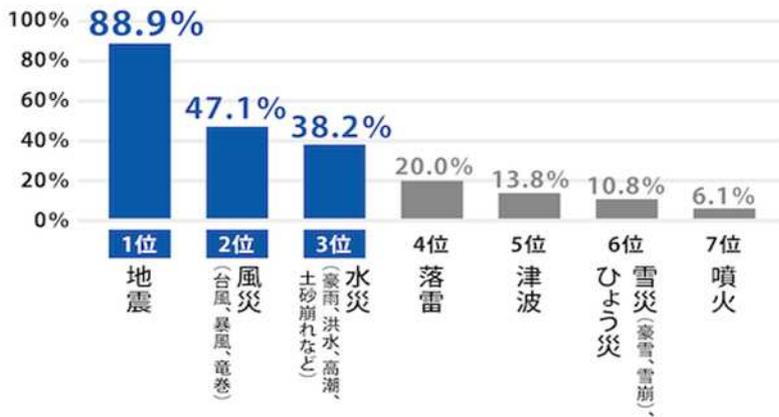
近年、地震や豪雨などの自然災害が多発しており、火災保険で対応する事故のうち6割の原因を自然災害が占めるようになってきました。

ジェイアイ傷害火災保険株式会社（代表取締役 兼社長執行役員：金子和彦）では、皆様が災害のリスクを認識し、必要な対策を検討していただくことを目的として、防災の日にあわせて各地域・年代の方々に不安に思う災害についてアンケートを実施しています。

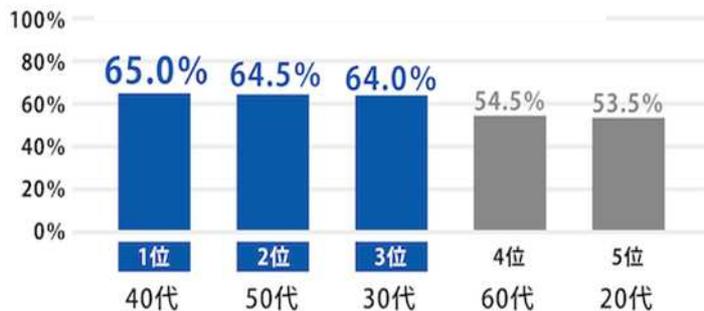
また、防災への取り組み等のアンケートも併せて行い、別紙のとおりまとめました。

## 1. 結果：

## ①不安に思う災害に関するアンケート結果



## ②災害に不安を多く感じている年代に関するアンケート結果



注) ①複数回答となります。また、災害の種類は多岐に渡りますが、当調査では自然に発生する災害（落雷を含む）に限定しています。

②Q1.の「とても不安を感じており、被害に遭う可能性が高いと考えている」及び「やや不安を感じており、被害に遭う可能性があると考えている」と回答した方の合計（20代から60代を対象）

### 2. 上記以外の結果サマリー：

\* 本調査データの詳細は以下リンクからもご覧いただけます。

URL：<https://www.jihoken.jp/mado/cat1/8640/#bessi>

#### ① 災害で失うことに不安を感じる 1 位は「自身の生命や健康」⇒詳細 Q3.

「自身の生命や健康」に続いて、「家族・知人の生命や健康」、「家・家財・車などの財産」が僅差で 2 位、3 位という結果になっています。また積極的に防災に取り組んでいる人でも「写真・ビデオ・使い慣れた用具」「ペットの生命や健康」「仕事や地域での役割」への不安は大きく、防災の取り組みを難しいと感じていることが分かりました。

#### ② 防災の取り組み 1 位は「食料や飲料水などの備蓄」、入手したい情報 1 位は「安否確認方法」⇒詳細 Q4. Q5.

「既に行っている」または「今後行いたいと考えている」防災の取り組みの 1 位は「食料や飲料水などの備蓄等」で 3 割超の方が既に取り組んでいます。今後入手したい情報の 1 位は「家族などの安否確認方法」で 30.6%となっています。

#### ③ 防災の取り組みが難しい理由 1 位は「災害がいつ来るかわからないので、緊張感を保てない」⇒詳細 Q6. Q7.

防災に十分に取り組めていない回答は 78.2%と高い割合になっています。なお、災害への不安を高く感じている層であっても 6～7 割の方は取り組みが進んでおらず、不安が行動に必ずしも結びついていない結果となりました。

#### ④ 保険に対する不安 1 位は「補償内容・範囲がよくわからない」⇒詳細 Q9.

何らかの不安があると回答した方は 66.4%にのぼり、保険に加入している方も含めても保険金支払いや補償内容などについては不安を感じている方が多い結果となりました。

### 3. 調査概要：

① サンプル数：1,000 名

② 対象：20 代～60 代 各 200 名を以下の全国 10 地域において人口比で設定

北海道、東北、北関東・甲信、南関東、北陸、東海、近畿、中国、四国、九州・沖縄

③ 方法：インターネット調査

④ 期間：2024 年 7 月 4 日～7 月 7 日

⑤ 設問：10 問（上位表示の項目に回答が偏らないよう質問時に項目をランダムに表示）

### 4. 利用条件：

当記事内容は出典元として「ジェイアイ傷害火災保険（株式会社）」を明記いただける場合に限り、転載が可能です。

以上

2024年8月27日発表

ジェイアイ傷害火災保険株式会社

## 2024年度 災害不安に関するアンケートレポート

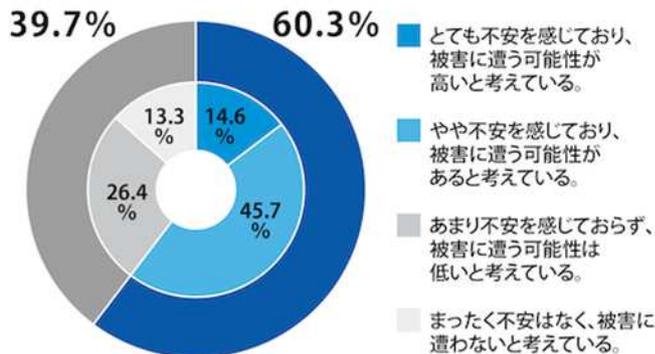
### 設問内容

- Q1. あなたは、災害に不安を感じていますか。
- Q2. あなたが不安に思う災害について、あてはまるものをすべてお知らせください。
- Q3. あなたは、災害によって何を失うことを不安に感じていますか。
- Q4. あなたが「既に行っている」または「今後行いたいと考えている」防災の取り組みにあてはまるものをすべてお知らせください。
- Q5. あなたが、災害に関して今後入手したい情報について、あてはまるものをすべてお知らせください。
- Q6. あなたは、防災について十分に取り組んでいると思いますか。
- Q7. 防災の取り組みについて、あなたが難しいと感じる点は何ですか。あてはまるものをすべてお知らせください。
- Q8. あなたは、災害時に建物や家財を補償する保険（共済含む）に加入していますか。
- Q9. あなたが、災害時に建物や家財を補償する保険に対して不安を感じる事柄について、あてはまるものをすべてお知らせください。
- Q10. 地震に関する保険について、あなたがご存知の内容にあてはまるものをすべてお知らせください。

Q1. あなたは、災害に不安を感じていますか。(n=1,000)

とても不安を感じており、被害に遭う可能性が高いと考えている	14.6%	<b>60.3%</b> 不安が多い
やや不安を感じており、被害に遭う可能性があると考えている	45.7%	
あまり不安を感じておらず、被害に遭う可能性は低いと考えている	26.4%	39.7% 不安が少ない
まったく不安はなく、被害に遭わないと考えている	13.3%	

あなたは、災害に不安を感じていますか



「とても」「やや」を合算すると、60.3%の方が災害に不安を多く感じています。

年代別に見ると 40 代が不安を感じる割合が最多の 65%となっています。また、30 代、50 代も 60%超の方が不安を感じるという結果になりました。一方、20 代が「まったく不安はない」と回答した割合が 3 年連続で 20%を超えており、年代による不安度合いの差が表れています。

【上記設問の年代別分析】

		不安が多い			不安が少ない		
		合計	とても不安を感じており、被害に遭う可能性が高いと考えている	やや不安を感じており、被害に遭う可能性があると考えている	合計	あまり不安を感じておらず、被害に遭う可能性は低いと考えている	まったく不安はなく、被害に遭わないと考えている
<b>1 位</b>	40 歳以上 50 歳未満	<b>65.0%</b>	18.0%	47.0%	<b>35.0%</b>	20.0%	15.0%
<b>2 位</b>	50 歳以上 60 歳未満	<b>64.5%</b>	15.0%	49.5%	<b>35.5%</b>	27.0%	8.5%
<b>3 位</b>	30 歳以上 40 歳未満	<b>64.0%</b>	16.5%	47.5%	<b>36.0%</b>	22.5%	13.5%
<b>4 位</b>	60 歳以上 70 歳未満	<b>54.5%</b>	11.0%	43.5%	<b>45.5%</b>	38.5%	7.0%
<b>4 位</b>	20 歳以上 30 歳未満	<b>53.5%</b>	12.5%	41.0%	<b>46.5%</b>	24.0%	<b>22.5%</b>

Q2. あなたが不安に思う災害について、あてはまるものをすべてお知らせください。

(n=867 ⇒Q1.で「まったく不安はない」と回答した人を除く。複数回答)

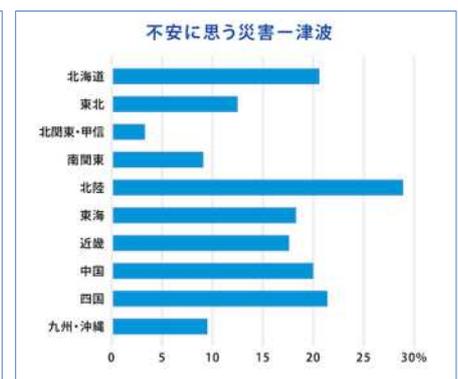
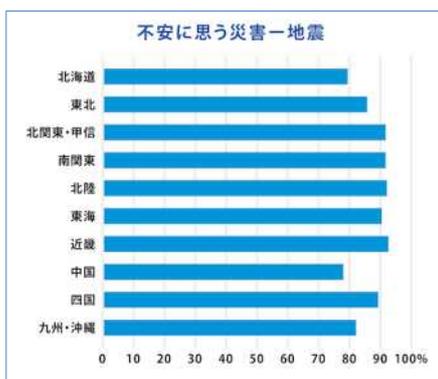
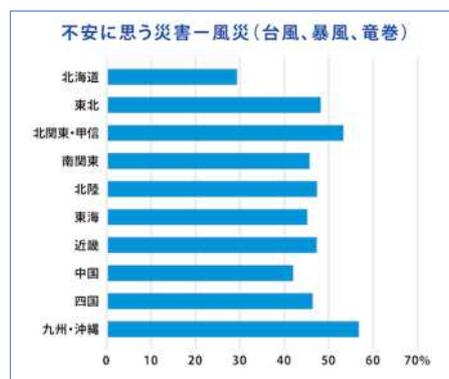
1位	地震	88.9%
2位	風災（台風、暴風、竜巻）	47.1%
3位	水災（豪雨、洪水、高潮、土砂崩れなど）	38.2%
4位	落雷	20.0%
5位	津波	13.8%
6位	雪災（豪雪、雪崩）、ひょう災	10.8%
7位	噴火	6.1%
	その他	0.1%

大半の方が地震への不安を感じていますが、台風などの風災や、豪雨などの水災への不安も高まっています。

なお火災保険のデータでは、対応する事故の6割超の原因を自然災害が占めています。地域別分析では、北陸地方における地震および津波に対する不安が昨年よりも大幅に上昇しており、今年1月に発生した能登半島地震の影響が大きいことを示しています。

【上記設問の地域別分析】

	風災 (台風、暴風、竜巻)	水災 (豪雨、洪水、高潮、土砂崩れなど)	雪災 (豪雪、雪崩)、 ひょう災	落雷	地震	津波	噴火	その他
北海道	29.4%	35.3%	38.2%	11.8%	79.4%	20.6%	11.8%	0.0%
東北	48.2%	32.1%	26.8%	17.9%	85.7%	12.5%	7.1%	0.0%
北関東・甲信	53.3%	36.7%	18.3%	43.3%	91.7%	3.3%	10.0%	0.0%
南関東	45.7%	33.9%	7.9%	20.1%	91.7%	9.1%	9.8%	0.4%
北陸	47.4%	44.7%	42.1%	18.4%	92.1%	28.9%	2.6%	0.0%
東海	45.2%	40.4%	5.8%	18.3%	90.4%	18.3%	3.8%	0.0%
近畿	47.3%	37.8%	4.7%	14.9%	92.6%	17.6%	2.0%	0.0%
中国	42.0%	60.0%	4.0%	16.0%	78.0%	20.0%	0.0%	0.0%
四国	46.4%	42.9%	0.0%	14.3%	89.3%	21.4%	0.0%	0.0%
九州・沖縄	56.8%	37.9%	4.2%	23.2%	82.1%	9.5%	6.3%	0.0%

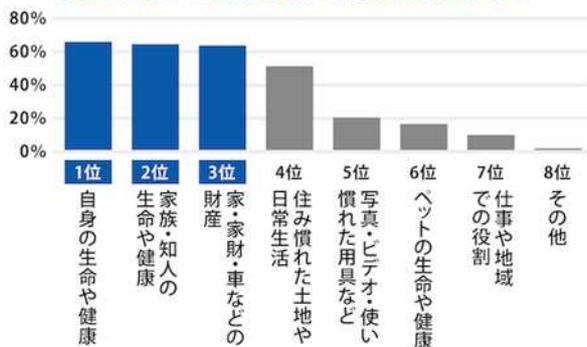


**Q3. あなたは、災害によって何を失うことを不安に感じていますか。あてはまるものをすべてお知らせください。**

(n=867 ⇒Q1.で「まったく不安はない」と回答した人を除く。複数回答)

1位	自身の生命や健康	66.0%	生命や財産
2位	家族・知人の生命や健康	64.6%	
3位	家・家財・車などの財産	63.8%	
4位	住み慣れた土地や日常生活	51.4%	それ以外
5位	写真・ビデオ・使い慣れた用具など	20.5%	
6位	ペットの生命や健康	16.6%	生命や財産
7位	仕事や地域での役割	10.1%	それ以外
8位	その他	0.2%	

災害によって失うことに不安を感じるもの



「自身の生命や健康」「家族・知人の生命や健康」「家・家財・車などの財産」の3つが僅差で上位を占めています。

後述の「Q6. あなたは、防災について十分に取組んでいると思いますか。」の結果と照らし合わせると、「十分に防災に取り組んでいる」と回答した方は他の層よりも写真やビデオ、ペットの生命や健康、仕事や地域での役割に対する不安が大きくなっており、これらの項目は防災について手が回らない、または取り組みが難しいと感じていることを表しています。

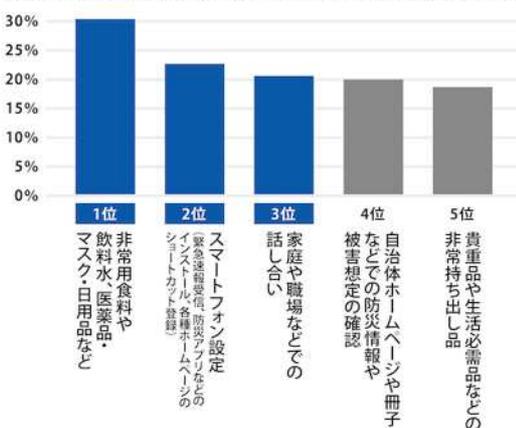
**【上記設問の Q6. (防災の取組み) とのクロス分析】**

	生命や財産			それ以外		生命や財産	それ以外	
	自身の生命や健康	家族・知人の生命や健康	家・家財・車などの財産	住み慣れた土地や日常生活	写真・ビデオ・使い慣れた用具など	ペットの生命や健康	仕事や地域での役割	その他
十分に取組んでいる (2.2%)	52.9%	29.4%	23.5%	47.1%	35.3%	23.5%	29.4%	0.0%
十分ではないが取組んでいる (19.6%)	71.7%	63.1%	63.1%	51.3%	16.0%	15.5%	15.0%	0.0%
あまり取組んでいない (45.9%)	68.7%	71.1%	66.0%	54.1%	21.9%	16.6%	8.5%	0.0%
全く取組んでいない (32.3%)	56.5%	55.1%	63.0%	46.3%	20.4%	17.1%	7.9%	0.9%

Q4. あなたが「既に行っている」または「今後行いたいと考えている」防災の取り組みにあてはまるものをすべてお知らせください。(n=1,000 複数回答)

		既に行っている	今後行いたい
<b>①情報入手・シミュレーション</b>			
2位	スマートフォン設定（緊急速報受信、防災アプリなどのインストール、各種ホームページのショートカット登録）	22.7%	13.0%
3位	家庭や職場などでの話し合い	20.6%	15.5%
3位	自治体ホームページや冊子などでの防災情報や被害想定の確認	20.0%	11.3%
4位	防災訓練・避難訓練などへの参加	9.3%	11.5%
5位	その他の情報入手・シミュレーション	0.1%	0.4%
<b>②備蓄・整理</b>			
1位	非常用食料や飲料水、医薬品・マスク・日用品など	30.4%	22.3%
2位	貴重品や生活必需品などの非常持ち出し品	18.7%	19.5%
3位	ヘルメットや消火器などの安全用具、懐中電灯・ラジオなどの災害対策グッズ	18.0%	15.1%
4位	生活用水（お風呂やポリタンクでの貯水）	15.8%	17.3%
5位	予備電源（太陽電池や電気自動車のバッテリー）	7.8%	16.0%
6位	ガソリンを常時満タン近くに給油	7.7%	10.0%
7位	ペットの防災関連用品	4.0%	7.0%
8位	その他の備蓄・整理	0.3%	0.4%
<b>③家屋対策</b>			
1位	家具などの転倒・重量物の落下防止	18.3%	16.4%
2位	耐震性能の確認や補強	6.8%	10.9%
3位	ガラスの飛散防止・固定、強化ガラスの取り付け	4.9%	13.2%
4位	浸水防止（雨戸、土嚢や止水版の準備、排水溝の掃除）	3.9%	8.5%
5位	その他の家屋対策	0.3%	0.6%
<b>④上記以外</b>			
	その他の防災の取り組み	0.1%	0.6%

既に行っている防災の取り組み・今後行いたい防災の取り組み



防災の取り組みにおいて「既に行っている」「今後行いたい」ともに 1 位は②備蓄・整理の「非常用食料や飲料水、医薬品・マスク・日用品など」となりました。既に行っている取り組みとしては①情報入手・シミュレーションの「スマートフォン設定」、「家庭や職場などでの話し合い」が続いています。

コストや手間のかかる③家屋対策は、順位としては低い数字になっています。（未実施だが）今後行いたいこととして、ガラスの飛散防止や耐震性能の確認などが挙げられています。

\* ①～④の各項目合算の順位としています。

**Q5. あなたが、災害に関して今後入手したい情報について、あてはまるものをすべてお知らせください。**

(n=1,000 複数回答)

災害前		
1位	備蓄量の目安	26.4%
2位	災害危険箇所や被害想定を示した地図（ハザードマップなど）	23.5%
3位	避難指示の種類や確認方法	23.1%
4位	有用な防災アプリやホームページなど	18.2%
5位	ペットとの同行が可能な避難所	11.5%
6位	会社や学校など普段過ごす施設の耐震性	10.6%
7位	防災に関する講演や訓練の開催情報	6.7%
	その他の災害前情報	0.0%
災害時		
1位	家族・同僚・知人などの安否確認方法	30.6%
2位	避難場所やそこまでの経路・移動方法	23.3%
3位	公的機関による支援や補償内容	22.0%
4位	初動対応（初期消火、電気・ガス取扱い）	19.0%
5位	家や家財被災時の修理会社手配方法	16.1%
6位	交通機関停止時の帰宅方法	15.5%
7位	救急患者の受入れ病院	14.3%
8位	AEDや応急手当の方法	11.4%
9位	地域で自身が担うべき役割	10.8%
10位	ペットの対応方法	9.3%
11位	要配慮者（介護など）の継続方法	4.4%
	その他の災害時情報	0.1%

災害前に入手したい情報は「備蓄量の目安」が1位となっています。東京都が公開している東京備蓄ナビでは、同居人の人数や性別、世代、お住まいの種類やペットの有無から、必要な備蓄の目安を算出してくれます。以下のリンクからアクセスできますので、一度必要な備蓄を調べてみるとよいでしょう。

<https://www.bichiku.metro.tokyo.lg.jp/>

災害時に入手したい情報は「安否確認方法」が1位となっています。

災害時は通信環境が極端に悪化する場合があります。災害用伝言ダイヤル（171）・災害用伝言版（web171）の活用や、災害地域への連絡は最小限にする心がけなども求められます。

また災害時に入手したい情報では今年から新しく「家や家財被災時の修理会社手配方法」の項目を追加しており、16.1%の方が情報を入手したいと考えています。

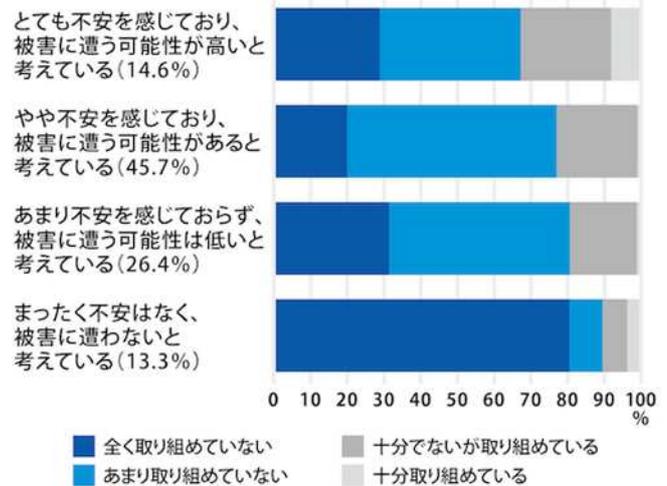
Q6. あなたは、防災について十分に取り組んでいると思いますか。(n=1,000)

全く取り組めていない	32.3%	取り組めていない 78.2%
あまり取り組めていない	45.9%	
十分ではないが取り組んでいる	19.6%	取り組んでいる 21.8%
十分に取り組んでいる	2.2%	

「全く」「あまり」を合わせ「取り組めていない」と回答した方が78.2%になるなど、全体的に防災の取り組みが進んでいない回答となりました。

なお、Q1.で「とても不安を感じている」と回答した方のうち、「取り組めていない」割合は67.2%、また「やや不安を感じている」と回答した方のうち、「取り組めていない」割合は77.0%であり、不安は感じるものの具体的な取り組みには至っていないという実態になります。

災害への不安度と、防災への取り組み



【上記設問の Q1. (不安度) とのクロス分析】

	取り組めていない			取り組んでいる		
	合計	全く取り組めていない	あまり取り組めていない	合計	十分ではないが取り組んでいる	十分に取り組んでいる
とても不安を感じており、被害に遭う可能性が高いと考えている (14.6%)	<b>67.2%</b>	28.8%	38.4%	<b>32.9%</b>	24.7%	8.2%
やや不安を感じており、被害に遭う可能性があると考えている (45.7%)	<b>77.0%</b>	19.9%	57.1%	<b>22.9%</b>	22.5%	0.4%
あまり不安を感じておらず、被害に遭う可能性は低いと考えている (26.4%)	<b>80.6%</b>	31.4%	49.2%	<b>19.3%</b>	18.2%	1.1%
まったく不安はなく、被害に遭わないと考えている (13.3%)	<b>89.5%</b>	80.5%	9.0%	<b>10.6%</b>	6.8%	3.8%

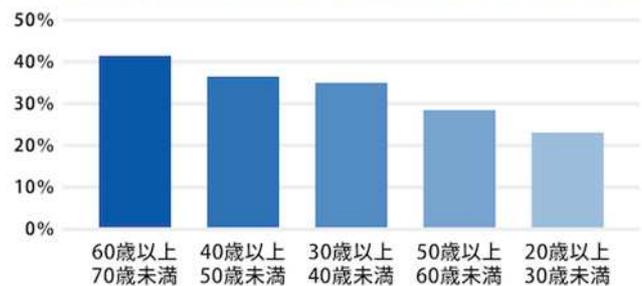
Q7. 防災の取り組みについて、あなたが難しいと感じる点は何ですか。あてはまるものをすべてお知らせください。  
(n=1,000 複数回答)

1位	災害がいつ来るかわからないので、緊張感を保てない	32.9%
2位	費用がかかる	29.7%
3位	特に難しいと感じる点はない	23.5%
4位	非常食の賞味期限の管理	23.2%
5位	知識がないので、何から始めたらよいかわから	21.8%
6位	情報が多いので、どの情報源を見たらよいかわからない	18.1%
7位	面倒であり、忙しい中で行うことが難しい	17.3%
8位	効果があるかわからない	12.5%
9位	いざとなれば公的機関等が助けてくれると思うので、自身で取り組む気になれない	4.8%
	その他	0.2%

1位は「災害がいつ来るかわからないので、緊張感を保てない」となりました。

上記回答者の年代別分析では、60代が最も高く20代が最も低い結果になっています。災害に対する緊張感を保ち続けることは難しいですが、「災害はいつ発生してもおかしくないもの」という心構えを持って防災に取り組むことが大切です。

災害がいつ来るかわからないので、緊張感を保てない



【上記設問の年代別分析】

	災害がいつ来るかわからないので、緊張感を保てない	面倒であり、忙しい中で行うことが難しい	費用がかかる	効果があるかわからない	知識がないので、何から始めたらよいかわからない	非常食の賞味期限の管理	情報が多いので、どの情報源を見たらよいかわからない	いざとなれば公的機関等が助けてくれると思うので、自身で取り組む気になれない	その他
60歳以上 70歳未満	41.5%	8.5%	27.5%	13.5%	17.5%	24.5%	19.5%	5.0%	0.5%
40歳以上 50歳未満	36.5%	16.0%	34.5%	10.5%	22.0%	26.0%	15.5%	2.5%	0.5%
50歳以上 60歳未満	35.0%	16.5%	26.5%	13.5%	20.0%	24.5%	21.0%	1.5%	0.0%
30歳以上 40歳未満	28.5%	26.5%	34.0%	14.0%	22.0%	26.0%	14.0%	6.5%	0.0%
20歳以上 30歳未満	23.0%	19.0%	26.0%	11.0%	27.5%	15.0%	20.5%	8.5%	0.0%

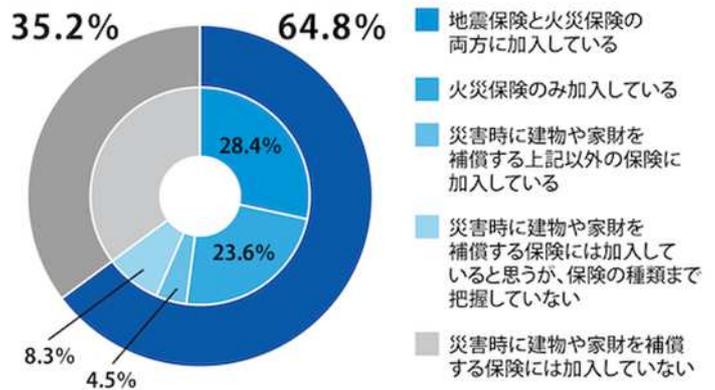
Q8. あなたは、災害時に建物や家財を補償する保険（共済含む）に加入していますか。（n=1,000）

地震保険と火災保険の両方に加入している	28.4%	加入 64.8%
火災保険のみ加入している	23.6%	
災害時に建物や家財を補償する上記以外の保険に加入している	4.5%	
災害時に建物や家財を補償する保険には加入していると思うが、保険の種類まで把握していない	8.3%	
災害時に建物や家財を補償する保険には加入していない	35.2%	未加入 35.2%

何らかの保険等に加入されている方が 64.8%という結果になりました。内訳では火災保険のみ加入と回答した方は 23.6%、地震保険と火災保険の両方に加入していると回答した方は 28.4%となっています。

「Q2. あなたが不安に思う災害について、あてはまるものをすべてお知らせください。」との照合では、地震保険で補償される地震・津波・噴火を不安に思う方でも、該当のリスクを補償する保険に加入されている方は 3 割程度にとどまる結果となりました。

災害時に建物や家財を補償する保険（共済含む）への加入状況



【上記設問の Q2.（不安に思う災害）とのクロス分析】

	地震保険と火災保険の両方に加入している	火災保険のみ加入している	災害時に建物や家財を補償する上記以外の保険に加入している	災害時に建物や家財を補償する保険には加入していると思うが、保険の種類まで把握していない	災害時に建物や家財を補償する保険には加入していない
不安に思う災害					
地震	31.9%	26.1%	4.3%	8.7%	29.1%
風災（台風、暴風、竜巻）	37.7%	28.4%	3.2%	9.1%	21.6%
水災（豪雨、洪水、高潮、土砂崩れなど）	33.5%	24.8%	6.0%	10.6%	25.1%
落雷	33.5%	26.6%	5.2%	9.2%	25.4%
津波	32.5%	22.5%	8.3%	9.2%	27.5%
雪災（豪雪、雪崩）、ひょう災	37.2%	22.3%	3.2%	10.6%	26.6%
噴火	32.1%	13.2%	9.4%	13.2%	32.1%

Q9. あなたが、災害時に建物や家財を補償する保険に対して不安を感じる事柄について、あてはまるものをすべてお知らせください。(n=1,000 複数回答)

1位	補償内容・範囲がよくわからない	31.6%	不安がある
2位	保険金がどの程度支払われるかわからない	29.6%	
3位	保険金がすぐに受け取れるかわからない	25.8%	
4位	保険料（掛け金）が高額化している	20.9%	
5位	事故の際にどのように手続きすればよいかわからない	19.3%	
6位	その他	0.2%	不安はない
	特に不安はない	33.6%	

不安はないとの回答が 33.6%となり、残りの 66.4%の方（複数回答）が、保険に対して何らかの不安を感じています。また不安を感じている項目の中身では、保険金や補償内容、保険金の受取や請求手続きについて「よくわからない」という不安が根付いている様子があります。これらのイメージの払拭は保険会社側の課題と考えられます。また、過去 2 年間 5 位だった保険料高額化が 4 位に上昇しており、相次ぐ値上げが不安要素として印象付き始めている傾向がうかがえます。

「Q8. あなたは、災害時に建物や家財を補償する保険（共済含む）に加入していますか」と照らし合わせると、何らかの保険に加入されていても 3 割を超える方が保険金や補償内容に関して不安を感じています。保険は必要と認識しつつも具体的な補償内容は把握できていない可能性があり、ここからも保険会社側の分かりやすい情報発信の必要性がうかがえます。

【上記設問の Q8.（保険加入）とのクロス分析】

保険加入状況	保険金がどの程度支払われるかわからない	補償内容・範囲がよくわからない	保険金がすぐに受け取れるかわからない	事故の際にどのように手続きすればよいかわからない	保険料（掛け金）が高額化している	その他	特に不安はない
地震保険と火災保険の両方に加入している (28.4%)	35.6%	38.4%	35.6%	18.7%	21.5%	0.4%	21.1%
火災保険のみ加入している (23.6%)	36.4%	35.2%	28.8%	19.5%	27.5%	0.0%	19.1%
上記以外の保険に加入している (4.5%)	31.1%	17.8%	24.4%	22.2%	24.4%	0.0%	17.8%
加入していると思うが、保険の種類まで把握していない (8.3%)	39.8%	45.8%	33.7%	39.8%	16.9%	0.0%	18.1%
加入していない (35.2%)	17.6%	22.2%	14.2%	14.5%	16.5%	0.3%	59.1%

Q10. 地震に関する保険について、あなたをご存知の内容にあてはまるものをすべてお知らせください。

(n=1,000 複数回答)

1位	特に知っている内容はない	60.5%
2位	地震（地震による津波・噴火含む）による被害は、火災保険では補償されない	19.8%
3位	保険料の税額控除がある	16.7%
4位	地震保険では火災保険契約金額の最大 5 割しか補償されない	11.9%
5位	住居の免震・耐震などによる保険料の割引がある	10.6%
6位	地震保険で不足する金額を上乗せで補償できる商品がある	6.6%
7位	日本政府が再保険を受けており、関東大震災と同等規模の巨大地震の場合も対応が可能である	6.1%
8位	その他	0.0%

地震保険については、「特に知っている内容はない」が過半数を占めています。全般的に知られている内容の割合が低く、地震リスクが火災保険では補償されないことも 20%未滿の認知度にとどまりました。

「Q8. あなたは、災害時に建物や家財を補償する保険（共済含む）に加入していますか」と照らし合わせると、地震保険と火災保険の両方に加入されている方、火災保険のみ加入の方のいずれも、火災保険では地震リスクが補償されないことをご存知の方が 3 割程度にとどまっています。

加えて、地震の上乗せ補償に関する認知もまだまだ低い状態です。そもそも「地震保険では火災保険契約金額の最大 5 割しか補償されない」ことをご存知の方が 12%ほどであり、不足する金額の上乗せ補償ができる商品があることをご存知の方は、さらにその半分程度という結果になりました。

地震を不安に思う方が多い一方で、地震保険に関する情報認知には引き続き課題があると言えます。

【上記設問の Q8.（保険加入）とのクロス分析】

保険加入状況	地震（地震による津波・噴火含む）による被害は、火災保険では補償されない	住居の免震・耐震などによる保険料の割引がある	保険料の税額控除がある	地震保険では火災保険契約金額の最大 5 割しか補償されない	地震保険で不足する金額を上乗せで補償できる商品がある	日本政府が再保険を受けており、関東大震災と同等規模の巨大地震の場合も対応が可能である	その他	特に知っている内容はない
地震保険と火災保険の両方に加入している (28.4%)	30.6%	19.0%	32.0%	20.8%	9.9%	9.2%	0.0%	41.9%
火災保険のみ加入している (23.6%)	27.1%	12.7%	19.5%	10.6%	6.8%	4.2%	0.0%	53.0%
上記以外の保険に加入している (4.5%)	22.2%	17.8%	20.0%	28.9%	8.9%	15.6%	0.0%	28.9%
加入していると思うが、保険の種類まで把握していない (8.3%)	13.3%	6.0%	13.3%	10.8%	12.0%	13.3%	0.0%	57.8%
加入していない (35.2%)	7.4%	2.6%	2.8%	3.7%	2.3%	2.0%	0.0%	85.2%

(注) 火災保険でも地震火災費用保険金など、被害内容により一部補償される特約がありますが、補償内容が地震保険と比較して大幅に限定されているため、一般的な知識として上記の設問としています。

**【参考 1.】火災保険（住宅物件）の事故件数のうち自然災害による原因が占める割合**

事故種別	件数	割合	区分
風災・ひょう災	1,848,788	47.0%	自然災害 59.9%
雪災	289,173	7.4%	
落雷	173,113	4.4%	
水災	43,028	1.1%	
水濡れ	258,614	6.6%	その他 40.2%
火災・破裂・爆発	37,534	1.0%	
その他	1,283,841	32.6%	
合計	3,934,080	100.1%	

\* 出典：損害保険料率算出機構「火災保険・地震保険の概況/火災保険住宅物件事故種別支払統計表（2018-2022 年度を合計）」

\* 上記統計では落雷は自然災害以外に分類されていますが、当調査では自然災害に含んでいます。

\* その他は、盗難、物体の落下、破損・汚損、電氣的・機械的事故等に対する保険金を集計したものです（不明を含みます）。

\* 地震保険の事故件数は上記件数に含んでいません。

\* 割合に関して小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100 とはなりませんのでご注意ください。

**【参考 2.】補償選択型住宅用火災保険「ieho いえほ」**

災害に対し、必要な準備は多々ありますが、その一つに保険加入があります。弊社では、不安に思う災害に併せて補償をカスタマイズ可能なインターネット専用火災保険「[ieho いえほ](#)」を取扱いしております。

**【参考 3.】地震補償を 100%にする「地震危険等上乗せ補償特約」**

Q10 の記載の通り、地震保険では火災保険の契約金額の最大 50%までの補償となっています。これでは全壊であっても住宅の再建が困難であり、差額の 50%分の上乗せ補償が可能な商品が東日本大震災後に開発されました。弊社のインターネット専用火災保険「[ieho いえほ](#)」では、「[地震危険等上乗せ補償特約](#)」の選択が可能であり、地震補償を最大 100%※にすることができます。

内閣府の「防災情報のページ」によると、東日本大震災で住宅が全壊した場合、住宅再建には平均 2,500 万円もの費用がかかっていました。一方、公的支援として受給できた金額は善意による義援金を合わせても約 400 万円にとどまり、住宅再建に必要な費用の 16%ほどの金額であったとされています。地震保険の 50%補償では公的支援金を加えても住宅再建費用には満たず、被災後の生活再建のためには地震補償を最大 100%※にできる保険に加入することをおすすめしています。

※最大 100%の補償となるのは、地震保険の保険金額を火災保険の 50%に設定した場合です。

以上